

ボーカロイド

# 「鏡音リン・レン」カバーアルバム発売記念!

ASAMI SHIMODA

# 下田麻美さんインタビュー

ボーカロイドのカバーアルバムという珍しい企画ですが、このお話をいただいたときのお気持ちをお聞かせください。

鏡音リン・レンのソフト自体がこの世に誕生してからもう一年半になりますが、発売後はやっぱりすごく興味があって「どんな曲を歌っているのかな」という思いがあり色々聴かせていただいたりもしていました。今回まさかこういう形で話をいただけるとは思っていなかったのですが、不思議だなという気持ちを踏まえたうえで、新しい気持ちを持ってボーカロイドのいろいろな曲を聴かせていただいたところ、一年前よりも凄く大量の曲がこの世に誕生しているということを改めて知って凄く感激しました。普通だったら時間が経つにつれ、ユーザーの方々は次に興味があるものに移行してしまうものですが、鏡音リン・レンは発売してもう一年経っているにもかかわらず最近出来上がった曲が人気になったり、昔からずっと愛されているものもあって、非常に息が長く皆様にも愛され育てられているキャラクターなんだなということを実感しました。

ユーザーの方が作られた楽曲を聴いたときの印象と、ご自身でその楽曲をカバーして歌ってみたときの印象の違いなどはありましたか？

自分で歌ってみての比較ということなのですが、彼女たちの声は自分の声を収録したものを使っているのですが、今までは彼女達が歌っているのを聴いても自分の声という意識がそれほどなかったんです。私は自分の歌い方に結構クセがあると思っているんですけど、彼女たちはそういうクセもないので、だから「これは自分じゃなくて鏡音リンと鏡音レンというキャラクターが歌っているソフトなんだ」という風にずっと思っていました。だけど実際に自分で歌って聴いてみると、劇々にちょっと彼女達に近いものを感じました。例えば私は結構しゃくりあげたりするクセがあるのですが、そのクセに似せて歌わせている作品は凄く自然に聴こえて自分に近かったり。だから今回の企画に参加して自分で歌いながら、やっぱり自分って鏡音リン・レンの声の大元なんだなということを感じました。

実際に歌ってみて、普段の楽曲と比べて苦労された部分などはありましたか？

キーが高いです！(笑)ボーカロイドの魅力ってたくさんあると思うのですが、何と言っても人間では行き着くことが出来ない音域を彼女達は軽々と歌ってしまうので、そういうところをリスペクトするファンは非常に多いと思うんですよ。自分は人間なんだなということをもっとまざまざと見せ付けられるような感じでした。

音域は人間が歌えるキーで調節された楽曲が当たり前のので、これが彼女達に作られた歌なんだなということを実感した上で、それを自分がカバーすることに対する責任や重み、プレッシャーというものを凄く感じました。彼女達のための歌だから、彼女達ではない自分が歌うということが本当にいいのかなという葛藤も凄くありました。でも、今回この企画に参加させていただけるにあたって、改めて鏡音リン・レンの曲に触れる機会が出来て、彼女達は凄く素敵な曲を与えてもらっていることが自分のことのように嬉しくて。彼女は自分の一部であるし、自分も彼女の一部であるし、なので応援してくださっている作曲家の皆様や、ファンの皆様のお力を借りて歌わせていただいているんだなという感謝の気持ちというのを常に忘れずレコーディングに充んでいます。

収録曲の中で、凄く印象に残ったものや気に入っているものはありますか？

正直全部気に入っているのが一番というものは無いのですが、凄く思い出入れが強い曲があります。「リンリンシグナル」という曲が、実は私が鏡音リン・レンの曲の中で初めて聴いて、一瞬で好きになった曲なんです。なので、この企画が出来ると前から「いつか歌いたいな」と思っていました。作曲者のシグナルさんという方にもお会いしてみたいと思っていました。もし許していただけるのであれば一度でいいから歌ってみたいという気持ちが、そのときから凄くありました。なので、このお話をいただいた時は凄く嬉しかったです。自分が小さいときに憧れていたアイドルグループに会ったじゃないけど、そういう凄く有名な人に会ったような気分でした。他の曲はこの企画を通して聴かせていただいて好きになった曲が多いんですけど、この曲に関しては前から大ファンだったので、そういう意味では特別な曲になりますね。

あと印象に残っているのは今日(インタビュー当日)収録した「ジェミニ」です。今までこういう表現というか歌い方を全然したことがないので、「僕は下田麻美の歌を全部聴いている！」っていう人でも「えっ？これ下田麻美？」と思ってしまうような新しい引き出しを発見することが出来たかなと思っています。「どうやって歌おうかな？」と非常に悩んでいた歌ではあったんですけど、凄く悩んでスタッフの皆さんに相談した結果「これでいこう！」という風になった楽曲なので、ぜひ新しい下田という意味でも、色々な方に聴いていただけたら嬉しいです。

鏡音リン・レンを用いて作られた楽曲を下田さんご本人が歌うにあたって工夫された点や、ボーカロイドには出来ない何かというものはありましたか？

歌唱力的な意味では、ボーカロイドは絶対に音はずしたりしないじゃないですか。高音も出るし低音もいくらでもいけるし。なのでそれに勝ってやろうという気持ちはないんですよ。今回はCDを出させていただきますけれども、私は何があっても役者であり声優でいたいという想いが強いんです。なので、歌を歌うときも「私は歌手なんだ！」じゃなくて「私は役者なんだ！」というつもりです。なるべく言葉というものを、例えばどうやったら綺麗な音色で聴かせられるとか心地よくとかではなくて、どうやったら表現できるかということが昔からずっと課題になっています。その言葉一つ一つ

下田麻美 (しもだあさみ)  
1月30日生まれ  
株式会社アーツビジョン所属  
【代表作】  
今日の5の2 (小塚ナカ)  
タユクマ -Kiss on my Dely- (総合アメリカ)  
THE IDOLM@STER (声優、歌唱)  
VOCALOID2 鏡音リン/レン (キャラクター)





©Crypton Future Media, Inc. All rights reserved.

を自分の中で作り上げて、そこに感情を込めてみたり、乗せてみたり、言葉の響きというものを音にしたときにどうなるのかっていうことを凄く追求してからレコーディングをさせていただいています。そういったところが彼女達にはない部分なのかなと思っていて、自分はそこをがんばろうと思いました。

——質問するタイミングが遅くなりましたが、「Prism」というタイトル名に込められた想いを教えてください。

待ちましたその質問！(笑) まずアルバムのタイトルを考えてと言われたときに、最初に浮かんだのが「Prism」だったんです。何故かと言うと、鏡音リン・レンというのは特定のカラーがないからこそ、鏡として音を反射して色々な光を作り出せる存在であり、そこにちなんだタイトルがいいなと思っていたからです。でも凄く心配性で欲張りなので、「Prism」だと短いんじゃないかと思ったんですよ。それで「○○Prism」という風に「Prism」の前に何かを付けようと思って色々言葉を搜したのですが、全然いいのがなくて暫く悩んでたんですね。彼女達は音楽のソフトなので、音楽に関係する単語を入れようかなとも思ったんですよ。「melody」や「song」、「sing」とか。これも暫く悩んで何もいいのが思いつかなくて、そうこうしている内にジャケットの写真が出来上がってきて見せてもらったんですよ。その写真が凄く透明感があって、窓に映っている光が凄く綺麗だなと思ったときに、色々なカラーが含まれているアルバムを指すタイトルとして「Prism」っていう短い響きはシンプルだからこそいいんじゃないかと思ったんです。さらにそのとき、「Prism」って言葉を見ながら「プ」の後に「リズム」って言葉が入っていることに気づいたんですよ！音楽を連想させる言葉が何かないかとずっと探してたんですけど、「リズムやー！」と思わず心の中で叫んでしまいました(笑)そして、「Prism」から「リズム」を抜いたら「プ(P)」じゃないですか。そこで私は、ボーカロイドの曲を作っている方を一部では「Pさん」と呼ぶという情報を知っていて、もうこれしかないと思いましたね！

これは私がすごく気をつけていることなのですが、このCDはPの皆さんからお預かりしている曲で、リスペクトや感謝の気持ちをすごく込めて歌わせていただいています。そうした意味でもこれがタイトルになることによって、その方々に対する感謝の気持ちも表現出来るかもしれないと思ったんですね。なので「P」を大文字にさせていただきました。果たしてどれくらいの方が「Prism」という言葉を見てそこまで連想出来るかという話なんですけど、制作者の皆様へのありがとうという気持ち、そして皆様が作り出されているリズムを大事に歌わせていただいておりますぞという気持ち、さらにそれが無限の色になって皆様にお届けされますぞという意味合いを、この「Prism」というタイトルに込めてみました。

——それでは最後に「とらだよ。」の読者に向けて一言お願いします。

いつも応援してくださっている皆様こんにちは！今回はこのようなCDを出させていただけることを本当に嬉しく思います。この1枚のCDは色々な方の協力や想いが込められて作られています。まずは鏡音リン・レンというものを生み出してくださったクリプトン様。そして素敵な楽曲を与えてく

ださった皆様、それを支持し続けてくださっているファンの皆様、そしてスタッフの皆様など本当に色々な方たちの協力があって、こうして1枚のCDにさせていただけることになりました。この感謝の気持ちを「とらだよ。」を通して皆様にお伝えすることが出来れば嬉しいです。挑戦に、感謝に、成長に、色々なものが詰まっているCDになっておりますので、このCDが皆様の日常に幸せや元気をお届けすることが出来れば嬉しいです。これからも宜しくお願いします！

文責：株式会社虎の穴 営業課 佐野 企図課 嶋本



### 鏡音リン・レン feat. 下田麻美 『Prism』

- 発売：Peertone
- 販売：ユニバーサルミュージック
- 価格：¥3,000 (税抜¥2,857)
- 規格番号：POCS-22002
- 全13曲 (12曲はVOCALOIDユーザー発表の既存曲、1曲は下田麻美自身の新曲)

# 2009.6.10 on SALE!